

「和牛定休型ヘルパー」の仕組みを導入し、新規就農者の人材育成と農家が定期的に休みがとれる環境を整備

【経緯等】

飯盛将太氏は、畜産が盛んな都城市の和牛農家で親元就農し 11 年間働いたのちに独立。令和 2 年 Moo Company（モーカンパニー）を設立した。

畜産農家は生き物相手なので休みがないことや仕事もハードなことなどから後継者が不足しており、また、新規就農の際は、牛舎の建築、子牛の仕入れなど初期投資も高額となりハードルが高い状況となっている。

このような状況から、同社では、「和牛定休型ヘルパー」を導入し、農家の負担軽減と新規就農者の育成に向け取り組んでいる。

【取組内容等】

「和牛定休型ヘルパー」は、契約農家から日別に飼養管理等の作業依頼を受け、スタッフが出向くもの。当初、契約農家は 5 戸であったが、定期的に休みが取れて楽になったなど口コミにより広がり、現在 18 戸まで増加した。

スタッフは、畜産への就農を希望している者 2 名を雇用し、月 1 人 20 日程度、1 日 7 ～ 8 時間働いており、ヘルパー業務で実務経験等を積みながら、新規就農に備えていくこととなる。Moo Company では、技術の習得期（1 ～ 2 年目）、独立準備期（3 ～ 4 年目）、独立後（5 ～ 10 年目）も軌道に乗るまで様々なサポートを継続していくこととしている。

最近では、農家の希望日とスタッフの休日希望日をスマホに入力し、同社で調整を行う予約アプリを導入。これにより、ヘルパー業務の調整等がよりスムーズにできるようになった。

【今後の事業展開】

今後は、契約農家の更なる増加と地元の農業大学などの就農希望者に積極的にアプローチを行うことによりスタッフの増加を目指すとともに、牛の除角、機械オペレーター業務など事業の枠を広げていくことで、地域のサポートを担う会社として発展させる。

また、新規就農時の初期投資額を少なくするために、後継者のいない経営体からの第三者承継などを視野に、新規就農のモデルとなるよう取組みを進めていく。

Moo Company の取組み



飯盛氏ご夫妻とスタッフ



除角作業

農家とスタッフの予約アプリ



- 緑：予約あり
 - 黒：予約なし
 - 牛マーク：競り（牛引き）の仕事
 - コニマーク：除角作業
- ※農家はスマホからヘルパーの依頼が可能